

# ほやほや

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.087

令和6年10月発行



日本赤十字社 福井赤十字病院  
Japanese Red Cross Society

ご自由に  
おとりください。

## 知っておきたい 新しい認知症治療薬

市民公開講座「選べる未来～乳がん治療のいま～」開催報告

がん征圧月間パネル展開催報告

教えてドクター【呼吸器外科】

10月15日(火)から院外処方となります

あなたに合う近くの「かかりつけ医」を

10月15日(火)から診療科名が変更になります

～創立100周年にむけて～福井赤十字病院 HISTORY Vol.3

調理師おすすめレシピ

# 知っておきたい新しい認知症治療薬



脳神経内科部長  
早瀬 史子

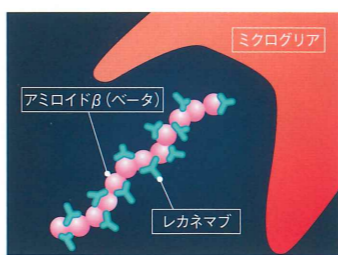
厚生労働省の調査によると、2040年には現在の40代後半から50代の「団塊ジュニア世代」が65歳以上となり、約584万人が認知症になると予測されています。これは、65歳以上の高齢者の約15%、つまり6.7人に1人が認知症を発症する計算です。以前、2012年の調査ではこの数値が802万人とされていました。近年の健康意識の向上や生活習慣の改善により、「軽度認知障害(MCI)」から認知症への進行が抑えられることで、予測される患者数が減少しています。

さらに、今回の調査で「軽度認知障害(MCI)」に該当する人々が2040年には約613万人に達すると初めて発表されました。MCIとは、物忘れの症状があるものの、まだ日常生活には大きな支障がない状態を指します。

認知症の中で最も多いタイプであるアルツハイマー病は、脳内に「アミロイドβ(ベータ)」というたんぱく質が蓄積することで進行し、記憶力や日常生活に支障をきたす病気です。2023年12月に登場した新薬「レカネマブ」は、このアミロイドβ(ベータ)を減少させることでアルツハイマー病の進行を遅らせることが期待されています(図1)。レカネマブは2週間に

1回の点滴で投与されますが、治療を始めるにはMRIやアミロイドPET(図2)、髄液検査などの特定の検査を受ける必要があります。また、治療期間は1年半を一つの区切りとしています。もしレカネマブが使用できない場合でも、従来の認知症治療薬や公的サービスの調整などを通じて、患者さんとそのご家族を支援します。

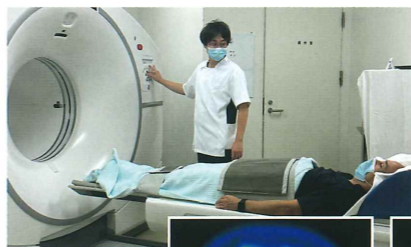
「選べる未来」乳がん治療のいま」を9月1日(日)、福井新聞社・風の森ホールで開催しました。乳腺外科と形成外科2人の専門医より、選択肢の多い乳がん治療の現状や、まだ日本では実施率の低い乳房再建の方法について解説しました。



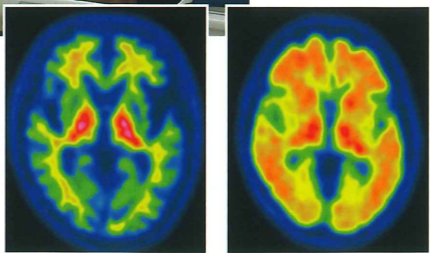
(図1)

## 〈アミロイドPET検査〉

脳内にアミロイドβ(ベータ)が蓄積されているか調べます



(図2)



陰性

陽性

出典：核医学検査の手引き アミロイドPET検査 検査を受けるにあたって作成：日本メジフィジックス株式会社、一部改変  
画像提供・監修：東京都健康長寿医療センター 認知症未来社会創造センター 副センター長 石井 賢二 先生



## 市民公開講座「選べる未来」乳がん治療のいま」開催報告

福井赤十字病院の市民公開講座「選べる未来」乳がん治療のいま」を9月1日(日)、福井新聞社・風の森ホールで開催しました。乳腺外科と形成外科2人の専門医より、選択肢の多い乳がん治療の現状や、まだ日本では実施率の低い乳房再建の方法について解説しました。

### 講演1 「知って備える乳がん治療」

福井赤十字病院 外科部長 田中文恵

乳がんは統計上、福井県の女性のがんの中で最も多いがんであることが知られています。治療は主に手術・放射線・薬物療法であり、病気の進行度(ステージ)とサブタイプという病気の分類によって診療ガイドラインに基づいて計画します。そこに年齢や持病、費用など一人ひとりの状況を考慮し、ご本人とご家族などと相談して決めることが基本となります。

「知って備える乳がん治療」は、患者さんご自身が納得のいく治療法を選ぶという点です。その一方で、考慮すべきことが多岐にわたるため、その一つひとつを吟味することは、患者さんにとって負担となります。そのため、ご家族など周りの方々のサポートも必要となつてきます。当院では、様々な職種が一丸となり、チームで患者さんの未来をサポートさせていただきます。



### 講演2 「乳房再建」ある「ままでいられる選択肢」

福井赤十字病院 形成外科部長 岡本仁

日本における乳がんの手術は、乳房全切除術が約半数を占めています。乳房再建率は諸外国と比較してまだまだ低く、今後の拡大が期待されています。

再建の方法は、大きく分けて、人工物であるシリコンインプラントを用いる方法と、背部や腹部の自分の組織を用いる方法の2種類があり、手術時間や体の負担、術後の経過、再建された乳房の自然さなどが異なります。それぞれの特徴をしっかりと理解し、担当医と相談の上、再建手術のタイミングも含めて納得のいく方法を選ぶことが大切です。

当院では、再建手術後は乳頭形成を行い、乳輪乳頭部分にタトゥを施し本物らしく仕上げたり、自然な胸の形にするための脂肪注入を行ったり、見た目への配慮も心がけています。大切な胸を「ある」ままでも「いられる」乳房再建。今後選ぶことができる、一つの選択肢として、覚えておいていただけたらと思います。



## がん征圧月間パネル展開催報告

「がん征圧月間」の9月に、院内において、がんについての正しい知識や早期発見の大切さを呼びかけました。

今年、「遺伝性がん当事者からの手紙」写真パネル展を新たに企画。遺伝性乳がん卵巣がん当事者会であるクラヴィスアルクスが作成し、遺伝性がん当事者から家族・社会に向けた想いを広く伝えるためのパネルを展示しました。(リンクリボン月間である10月も継続して展示しています。)

遺伝性がんの一つである、遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)は、診断を受けることにより、ご自身やご家族の健康管理に役立てることができると言われています。

当院では HBOCだけでなく、遺伝性の疾患について、患者さんやご家族への遺伝力カウンセリングを行っています。ご希望の方は、がん相談窓口や主治医にご相談ください。

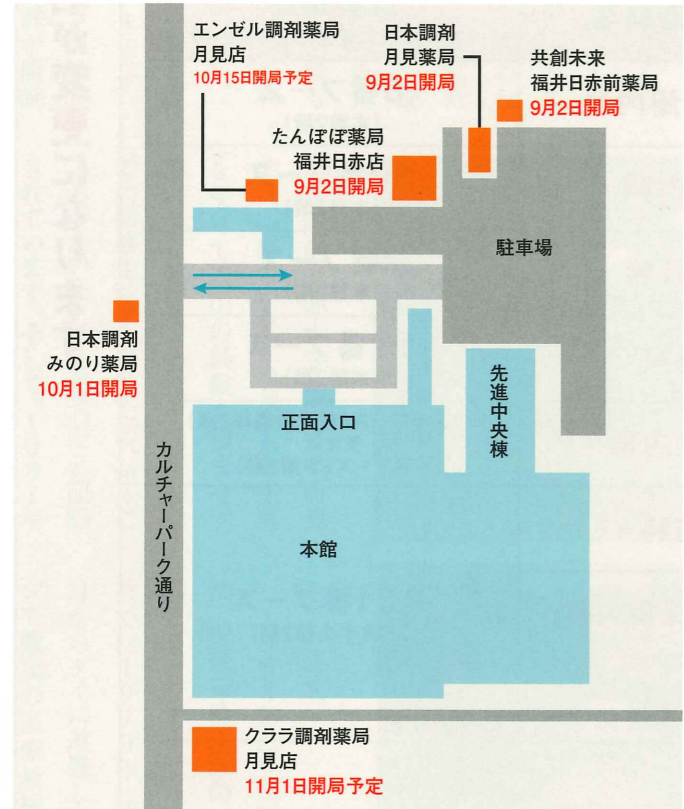


●お問い合わせ/0776-363673 がん相談窓口

〈院外処方移行での注意点〉

- ① 処方せんの有効期限は、処方日を含めて4日間です。  
(処方日や土日・祝日を含みます)
- ② 処方せんを紛失した場合、再発行の費用が全額自己負担となります。
- ③ 処方せんは、なるべく平日の日中の間に保険薬局にお出しく下さい。

〈当院周辺薬局〉



当院は10月15日から、全面的に院外処方に移行します。  
患者さんにおかれましては、自宅や病院に近い、または信頼のできる薬剤師が居るなど、ご自身に合った保険薬局をお選びください。また、保険薬局を決める際には、お薬と一緒にお渡ししている「薬剤情報提供書」やお支払いの際にお渡ししている「診療報酬明細書」、ご自身の「お薬手帳」や「マイナンバーカード」を持参のうえご相談ください。保険薬局でご相談の際、次回の処方日を伝えていただくのと在庫の確保が円滑に進み、スムーズにお薬を受け取ることが出来ます。  
なお、平日の診療時間内に救急外来を受診した場合も「院外処方」となります。

ただし、平日の診療時間外および土日・祝日に受診した場合は、『院内処方』となります。ご注意ください。  
また、9月2日(月)より、院外処方せんFAXコーナーを本館正面玄関横に設置しています。診察終了後に病院内からご希望の保険薬局へ院外処方せんを送信いただく事で、薬の受け取りがスムーズにできます。FAXを使用する際にお手伝いをする補助員もおりますので積極的にご利用ください。

〈院外処方せんFAXコーナー〉



10月15日(火)から院外処方となります

教えてドクター 《呼吸器外科》

Q&A

2024年7月に福井県内の病院で初めて保険診療で肺がんに対するロボット手術を行いました。ここでは肺がんに対するロボット手術について一問一答形式でご説明します。

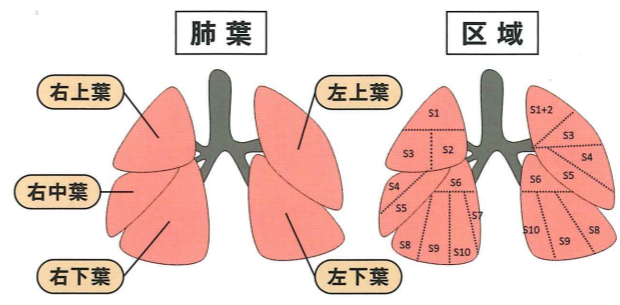


呼吸器センター長兼呼吸器外科部長 松倉規

肺がんに対するロボット手術について

Q. ロボット手術は、どのような場合に行いますか？

A. 右肺は3個、左肺は2個の肺葉に分かれます。それぞれの肺葉は2個～5個の区域で構成されます。肺葉を取る肺葉切除、区域を取る区域切除がロボット手術の対象となります。



術を行うことが多いです。ロボットを患者さんの身体に合体させ、体内に鉗子を挿入します。鉗子を使用して肺葉あるいは区域を切除し、肺を体外に取り出します。ロボットを患者さんの身体から外し、ドレーン(管)を1本入れて手術を終了します。



Q. 肺がんに対するロボット手術はどのように行われますか？

A. ロボット手術といってもロボットが勝手に動いて手術するわけではありません。患者さんから離れた操作台にいる術者がコントローラを動かすと、ロボットに取り付けられた鉗子(手術器具)が運動し、体内で手術が行われるというしくみになっています。助手が患者さんのすぐ近くにおいて、術者の操作をサポートしたり鉗子を交換したりします。ロボット手術では全身麻酔がかけられた患者さんに横向きになってもらい、手術を開始します。ロボットの鉗子やカメラを挿入するための8mmあるいは12mmの創4個と、助手の操作に用いる3-4cmの創1個、合計5個の創を用いて手

Q. ロボット手術にはどのような利点がありますか？

A. ロボット手術は大きな創ではなく複数の小さな創から行うため、患者さんの身体への負担が小さく、速やかな術後回復が期待できます。この点は従来の内視鏡手術(胸腔鏡手術)と共通しています。  
ロボット手術と胸腔鏡手術の大きな違いは鉗子とカメラの性能にあります。ロボットで使用する鉗子には複数の関節があり、さまざまな方向によく動きますので、胸腔鏡手術の鉗子では不可能な複雑な動きを生み出すことができます。また、ロボット手術のカメラは体内の様子を立体画像として映し出すほか、ズーム機能によって細かな部分を鮮明に表示します。  
肺がんの手術では肺やリンパ節といったもろい組織を触ります。また、傷つけると大変な血管や気管支、あるいはその周囲に対する操作が大半を占めます。ロボット手術ではロボットだからこそできる動きを活かし、胸腔鏡手術では困難な精密な操作を、組織の損傷や出血を減らしながら行うことができます。

あなたに合う近くの「かかりつけ医」を

「かかりつけ医」とは、「健康に関することを何でも相談でき、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる、身近にいて頼りになる医師」のことです。いざという時に困らないためにも、地域で信頼できる「かかりつけ医」を見つけておきましょう。病気の予防・早期発見に繋がります。当院では、症状が落ちついた患者さんには、かかりつけ医の先生に紹介させていただきます。

また、かかりつけ医をお持ちではない患者さんは、担当医または相談窓口までお気軽にご相談ください。なお、当院と連携している地域の医療機関は、左下にある二次元コードより検索することができます。

紹介 専門的な治療が必要な場合

福井赤十字病院

かかりつけ医

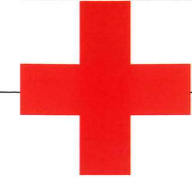
連携

救急医療 精密検査 高度医療

初回診察 継続治療 健康診断

症状が安定した場合 逆紹介

かかりつけ医の検索はコチラ



# ～ 創立100周年にむけて～ 福井赤十字病院 HISTORY — Vol.3 (1975～2000) —

福井赤十字病院は2025年4月(令和7年)に100周年を迎えます。前号では1950年(昭和25年)～1975年(昭和50年)を振り返りましたが、今号では1975年(昭和50年)から2000年(平成12年)までを振り返ります。

1925年の開院当初から1975年にかけて職員数は69名から484名の7倍に増加しました。職員の増加にともない、子どもを持つ職員も増加し、職員の福利厚生のために院内託児室の設置が検討されるようになりました。設備などの要件で保育所としての認可は難しく、施設託児所として開設することで準備が進められ1977年(昭和52年)5月に託児室が開設されました。当時の記録によると1年間で10名の乳児を受け入れ、1日平均5名、最も多く保育した日は1日9名の利用があったと記録されています。

この期間においても病院診療機能の拡大を進めています。1978年(昭和53年)9月頃から集中治療室開設の検討が開始され、運用体制設備についての院

内の討議を重ねつつ、1980年(昭和55年)に集中治療室を開設し運営していた名古屋第二赤十字病院(現…日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院と神奈川県立看護教育大学校(平成15年3月閉校)に看護師を中心に職員を派遣しました。特に



1981年11月 集中治療室新設

床が新設されました。この集中治療室の開設は昭和56年10月23日付の福井新聞によると福井県初の開設だったと報道されています。また、同年の12月には、現在も残っている5病棟が竣工し、病床数は576床(一般病床516床、結核病床40床、伝染病床20床)に増加



1995年1月 阪神・淡路大震災

1983年(昭和58年)7月には、戦後初めて医師、看護師を海外に派遣しました。日本赤十字社では1979年(昭和54年)12月からタイに避難してきたカンボジア難民の医療救援活動として、医療要員をタイに派遣しており、

1995年(平成7年)1月には阪神・淡路大震災が発生、発災翌日から2月20日までの間に医療救護班を4班派遣しました。医療救護班は現地で3日～5日間の活動を行い、特に発災直後の医療救護班1班は1月19日に神戸大学で85名、神戸市立灘小学校で99名、他2か所計205名の診療を行いました。また、神戸赤十字病院に看護師2名を派遣しました(2003年に神戸市生田区から同市中央区に移転、当院看護師を派遣したのは移転前の神戸赤十字病院)。阪神・淡路大震災の教訓をもとに、災害時に中心的な役割を担う病院として、災害拠点病院の制度が創設され、当院においても1998年(平成10年)に災害拠点病院の指定を受け、現在でも災害対応力の一層の向上を図っています。

診療科名が  
わかりやすく  
なります！



院長 小松 和人

患者さんが、具体的な疾患やご自身の症状に合った診療科を選びやすくなるよう、10月15日(火)から診療科の名称を変更します。診療科名の変更にともない、エントランスホールに設置している自動受付機、精算機の表示画面、外来受付番号表示板などの院内各所の表示も変更します。

※診察場所については変更ありません。

変更前診療科名	変更後診療科名	診察場所 (診察場所に変更はありません)
内科	代謝・内分泌内科	6番ブース (本館2階)
神経内科	脳神経内科	10番ブース (本館2階)
外科	消化器外科	7番ブース (本館2階)
	乳腺外科	11番ブース (本館2階)
	緩和ケア内科	S11番ブース(先進中央棟1階) または 7番ブース(本館2階)
腎臓・泌尿器科	腎臓内科	S21番ブース (先進中央棟2階)
	リウマチ・膠原病内科	
	泌尿器科	

## 〈腎臓・泌尿器科の医師担当表〉

診療科名	担当医師名		
①腎臓内科	鈴木医師	松井医師	山岸医師
	伊藤正典医師	小林医師	森田医師
	石淵医師		
②リウマチ・膠原病科	鈴木医師	伊藤清亮医師	
③泌尿器科	小松医師	角野医師	河野医師
	高田医師	山内医師	品川医師
	西川医師	大野医師	塚原医師

腎臓・泌尿器科の医師は「腎臓内科」「リウマチ・膠原病内科」「泌尿器科」のいずれかの診療科の担当となります。

※患者さんが予約の変更等の手続きをする必要はありません。

10月15日(火)から診療科名が変更になります

【参考】この道(昭和60年福井赤十字病院看護部編纂)、福井赤十字病院創立90周年記念誌、福井赤十字病院年報第5巻(平成6年度)、神戸赤十字開院20周年記念誌、福井新聞:専門超え集中治療～ICUを導入～1981年(昭和56年)10月23日付福井新聞



調理師  
おすすめ

# 食欲の秋を楽しむ 本格中華スイーツ ごま団子



中華料理の甘い点心で、芝麻球(チーマーチュウ)といいます。揚げたてのごま団子はごまの香りがとても香ばしく絶品です。

いざ作ってみると皮が破れやすく難しいですが、このレシピは皮が破れにくいので、ぜひ参考にして作ってみてください。

あん代わりにチョコやさつまいもなどを入れて、アレンジを楽しんでみるのもいいですね。

担当:調理師 中野裕貴

## 材料(15個分)

### 〈生地〉

白玉粉	200g
砂糖	100g
ラード(A)	20g
水	150cc
片栗粉	20g
熱湯	20cc

### 〈あん〉

市販のこしあん	250g
ラード(B)	10g
白いりごま	適量
サラダ油	適量

## 作り方

- ①ボウルに白玉粉と砂糖とラード(A)を入れ、水を少量ずつ加えて混ぜます。
- ②別のボウルに片栗粉、熱湯を加えてよく混ぜます。
- ③②を①に加え、混ぜ合わせ、細長く成形し、15等分し丸めます。
- ④あんこにラード(B)を加えて細長く成形し、15等分します。
- ⑤生地にくぼみを作り、あんを入れて、包みます。
- ⑥丸く成形したら、白いりごまをたっぷり付けます。
- ⑦180℃に熱した油の中に入れ、浮いてきたら完成です。

## 栄養量(1個分)

エネルギー	180kcal	脂質	9.6g
たんぱく質	3.1g	塩分	0g

## イベント開催報告

### 5年ぶり柳家三三落語会を開催しました

9月10日(火)柳家三三さんを招き、「笑い与健康」をテーマに落語会を開催。100名を超える方々にご参加いただきました。

演目は「時そば」と「転失気」の2席。古典落語ならではの粋な語り口、会場は終始笑い声であふれました。

これからも来院者のみなさま、地域のみなさまが笑顔になるイベントを企画していきますので、どうぞお楽しみに!

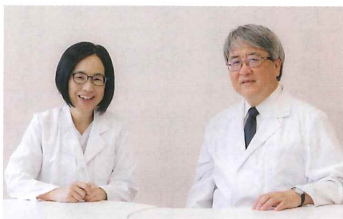
※12月にはキャンドルサービスなどクリスマスイベントを予定しています。



## 今月の表紙

### 脳神経疾患の悩みについてぜひご相談ください

脳梗塞、認知症、てんかん、片頭痛やパーキンソン病などの神経難病に対する治療法が進化し、早期発見と治療で改善可能な病気が増えています。当院の脳神経内科では、7名の医師が最新の画像診断や薬物療法、リハビリテーションを駆使し、生活の質を向上させるサポートを行っています。気になる症状がある方は、ぜひ脳神経内科にご相談ください。



## + 福井赤十字病院

### 理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

### 基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

〒918-8501  
福井県福井市月見2丁目4番1号  
TEL.0776-36-3630代  
FAX.0776-36-4133



HP  
読者アンケート  
広報に関する  
ご意見、ご感想を  
お待ちしております。



# ほやほや

"ほやほや"と納得できる情報、できてきた"ほやほや"の情報をみなさまに提供していく季刊発行の情報誌です。院内の広報委員で毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。